

第2学年 国語科学習指導案

日 時 平成20年10月10日(金) 5校時
場 所 2年生教室
児童数 男子1名 女子6名 計7名
授業者 志馬田 恵子

- 1 単元名 だいじなところに 気をつけて 読もう
- 2 教材名 「サンゴの海の生きものたち」(説明文) もとかわ たつお 作

3 単元について

(1) 児童について

児童は、1学期の説明文教材「たんぼぼのちえ」の学習で、時間や順序を表す言葉に気をつけながら変化の様子を読み取ることや主語と述語の関係をとらえて読み取ること、文末表現から様子と理由を区別して読むことについて学習している。また、挿絵をもとに様子の大体を予想して叙述から読み取ることや学習してきている。これらの学習から、文章を読み進める時には、視点をもって読み取ろうとしたり、主語と述語をとらえて文を理解しようとしたりする態度が育ってきている。しかし、一つ一つの文について理解はできても、文と文のつながりを考えたり大事な語句に着目したりしながら読み取る力は十分とはいえない。これからも、語句や表現に注意しながら読む活動を繰り返していくことを通して、叙述に即して正確に文章を読み取っていく力を高めていかなければならないと考える。

書く活動としては、課題について読み取るために様子や気持ちを表す言葉や文にサイドラインを引くこと、学習のまとめでは登場人物になって吹き出しに書くことを中心に取り組んできた。サイドラインを引くことについては支援を必要とする児童もいるが、吹き出しに書くことにはみんな意欲的で、読み取ったことや想像したことを自分なりの言葉で書きまとめている。

(2) 教材について

第1学年及び第2学年の「C読むこと」の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気づきながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書をしようとする態度を育てる」である。低学年の説明文の学習では、書かれていることの大体を読み取ることが大切である。まず、話題提示文を見つける。そして、その問いに対する叙述を正確に読み取ることが必要である。

本単元「だいじなところに気をつけて読もう」では、「海の生きものたちがどのようにかかわり合っているのかを読み取り、共生の仕組みの不思議に興味をもつ」ことを主目標としている。

本教材は、サンゴ礁の海の生きものたちのかかわり合いについて述べた説明文で、イソギンチャクとクマノミ、ホンソメワケベラと大きな魚たちの共生の関係について紹介している。

文章は10の形式段落に分かれており、「Ⅰ話題提示」「Ⅱイソギンチャクとクマノミとのかかわり合い」「Ⅲホンソメワケベラと大きな魚たちとのかかわり合い」「Ⅳまとめ」の4つのまとまりから構成されている。これまで読んできた説明文に比べ、登場する生きものが多いことや生きもの相互の関係も入り組んでいることから、説明がやや複雑になっている。そのため、説明の中心的な事柄を見失うおそれがある。しかし、話題提示文で読みの視点をもたせ、2つの事例を述べてまとめるという文章構成から、全体がとらえやすくなっている。

また、日頃馴染み深いとはいえない海の中の共生について述べられているものの、美しい大きな写真が効果的に使われており、児童は、かかわり合いについてイメージを広げやすく、興味をもって読むことができるであろうと考える。

(3) 指導にあたって

海は身近になくても、その広さや海特有の青い色、そこには多種多様な生きものがいることを児童は映像や絵本等で見て知っている。海の中では、大きな魚は小さい魚を食べて生きているということも1学期の物語文「スイミー」の学習を通して知った。しかし、海の生きものには、それぞれ特徴があること、互いにかかわり合っている生きものたちもいることを知っている児童はほとんどいない。そこで、自然界では、生きのびるために違う種類の生きもの同士でも互いに協力し合っている場合があることを、未知なる不思議な海の世界に興味をもたせながら読み進めたい。また、教室内に「海のいきもの図書コーナー」を設けて図鑑や科学読み物を置き、読書への興味関心を広げていきたい。

「つかむ」段階では、まず、サンゴ礁の映像や写真を提示してサンゴの海のイメージをもたせる。そして範読を聞かせ、初めて知ったことや不思議に思ったことを発表させてサンゴの海への興味を高めたい。次に、教材文が4つの大きなまとまりから構成されていることを、登場する2組の生きものに注目させてつかませる。そして、話題提示文から「どんな生きものが」「どのようにかかわり合っているか」という読みの視点をつかませる。

「ふかめる」段階では、2組の生きもののかかわり合いについて、話題提示文に即して、その問いに対する答えを叙述に即して読み取らせていきたい。書かれている事柄の順序に従い、「特徴」「かかわり合い」と読み取らせていく。具体的に読み取る場面では、主語が明確でない文もあるので、前の文とのつながりや述語から主語をとらえさせる。また、写真とも照らし合わせながら読み取らせていきたい。そして、ペープサートを使った動作化により楽しく活動する中で読み取りを確かなものにしていきたい。

「まとめる」段階では、海の生きものについての本を探して読む時間を設定する。海の生きものについて書かれた本を読み、初めて知ったことや不思議に思ったことなどを絵と文にまとめて「海の生きものカード」をつくる活動を行い、図鑑などへの興味を広げ、新たに得た知識を知らせ合おうという意欲をもたせたい。そして、科学的な読み物の読書へと発展させていく機会としたい。

本時の指導では、まず、ホンソメワケベラと大きな魚とのかかわり合いを読み取るための手がかりとなるホンソメワケベラの体の特徴について読み取らせる。次に、写真を手がかりにしてイメージを広げさせる。ホンソメワケベラと大きな魚たちとのかかわり合いについて読み取らせていくために、「そうじ」「とった虫」「食べもの」という大事なところを見つけてサイドラインを引かせる活動を通して読みを確かなものにした。まとめる段階では、ホンソメワケベラと大きな魚たちのかかわり合いについて書きまとめさせたい。

4 単元の目標と評価規準

| | | |
|----------|--|--|
| 主目標 | ◎海の生きものたちがどのようにかかわり合っているのかを読み取り、共生の仕組みの不思議に興味をもつ。 ○海のいろいろな生きものについて調べ、「海の生きものカード」を作って交流する。 | |
| | 目 標 | 評価規準 |
| 関心・意欲・態度 | ○海の生きものについて興味をもち、海の生きものの読み物を読もうとする。 | ○海の生きものについて書かれた読み物を、興味をもって読もうとしている。 |
| 読むこと | ◎「サンゴの海の生きものたち」が互いに役立っていることを、事柄の順序を考えながら読む。 ○語や文のまとめりや内容、言葉の響きなどについて考えながら読む。 | ◎登場する生きものの特徴やかかわり合いについて、叙述に即して正確に読み取っている。(読イ) ○語や文のまとめりや内容を考えて音読している。(読エ) |
| 書くこと | ○図書館などの本を読んで、「海の生きものカ | ○図書館などの本を読んで、「海の生きものカ |

| | | |
|------|---|--|
| | ド」を作る。 | ード」をわかりやすく書いている。(書イ) |
| 言語事項 | ○文の中における主語・述語の関係に注意して読む。 ○片仮名を読んだり書いたりし、片仮名で書く語を文や文章の中で使う。 | ○主語・述語のつながりを確かめながら読んでいる。(言エ(あ)) ○片仮名を正しく読んだり書いたりするとともに、片仮名で書く語を文や文章の中で使っている。(言イ(あ)) |

5 指導計画 (全11時間)

| 段階 | 時 | 学習内容 | 評価規準 | 書く活動 |
|-------------|---|---|---|---|
| 第一次 つかむ | 1 | ・映像や写真を見ながら、サンゴの海の中のイメージを広げる。 ・全文を読んであらすじをとらえ、感想をもつ。 | ・題名や写真について興味をもち、気づいたことなどを発表している。 ・全文を読み、初めて知ったことや不思議に思ったことなどの感想を書いている。(発言、ノート) | ●初めて知ったことや不思議に思ったことをノートに書く。 |
| | 2 | ・新出漢字や片仮名の学習をする。 ・難語句の確認をする。 ・音読の練習をする。 | ・新出漢字や片仮名を正しく読み書きしている。 ・語や文のまとまりを考えながら音読している。(ノート、音読) | |
| | 3 | ・全文を音読し、4つの大きなまとまりに分ける。 ・問いの文を読み取り、学習の計画を立てる。 | ・出てくる生きものに着目し、4つの大きなまとまりに分けている。 ・話題提示文を見つけ、読みの視点をつかんでいる。(サイドライン、発言) | ●問いの文を見つけてサイドラインを引く。 |
| 第二次 ふかめる | 4 | ・イソギンチャクとクマノミの体の特徴を読み取る。 | ・主語と述語に気をつけながら、イソギンチャクとクマノミの体の特徴を読み取っている。(サイドライン、学習シート) | ●イソギンチャクとクマノミの体の特徴にサイドラインを引く。 ●イソギンチャクとクマノミの体の特徴をそれぞれまとめて書く。 |
| | 5 | ・イソギンチャクとクマノミのかかわり合いについて読み取る。 | ・イソギンチャクとクマノミは、毒の針と威嚇する音によって互いに守り合っていることを読み取っている。(サイドライン、学習シート) | ●イソギンチャクとクマノミが、互いに守り合っているところにサイドラインを引く。 ●イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを書きまとめる。 |
| | 6 | ・イソギンチャクとクマノミのかかわり合いについて、動作化する。 | ・イソギンチャクとクマノミになって、体の特徴や相手を守っている様子を動きや言葉で表現している。(動作、学習シート) | ●イソギンチャクとクマノミの気持ちになって吹き出しに書く。 |

| | | | | |
|--------|---------|---|--|--|
| 本時 | 7 | ・ホンソメワケベラと大きな魚たちのかかわり合いについて読み取る。 | ・ホンソメワケベラと大きな魚たちは、食べ物を得たり健康を保ったりして、互いに役に立っていることを読み取っている。(サイドライン、学習シート) | ●ホンソメワケベラと大きな魚たちのかかわり合いを書いているところにサイドラインを引く。 ●ホンソメワケベラと大きな魚たちのかかわり合いを書きまとめる。 |
| | 8 | ・ホンソメワケベラと大きな魚たちのかかわり合いについて、動作化する。 | ・ホンソメワケベラと大きな魚たちのかかわり合いを、学習したことをもとに動きや言葉で表現している。(動作、学習シート) | ●ホンソメワケベラと大きな魚の気持ちになって吹き出しに書く。 |
| 第三次まとめ | 9 10 | ・海の生きものについて書かれた本を読み、生きものについて絵と文にまとめ、「海の生きものカード」を作る。 | ・海の生きものについて書かれた本を読み、海の生きものの特徴をとらえて伝えたいことを絵と文にまとめている。(カード) | ●「海の生きものカード」を作る。 |
| | 11 | ・「海の生きものカード」を発表し合い、感想を交流する。 | ・友だちの「海の生きものカード」に興味をもって見るとともに、感想を発表している。(発言) | ●友だちの発表への感想を書く。 |

6 本時の指導 (7 / 11)

(1) 目標

ホンソメワケベラと大きな魚たちとのかかわり合いを読み取り、共生の仕組みについて理解することができる。

(2) 授業仮説

読みの視点に基づき、自分の考えを文章にまとめる活動を設定することにより2つの生きもののかかわり合いをとらえることができるであろう。

(3) 展開

| 段階 | 学習活動 | 支援と評価 |
|-----------|--|--|
| つかむ 5分 | 1 前時の学習を想起する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・クマノミとイソギンチャクのかかわり合いについてまとめをもとに想起させる。 ・P.74の写真を提示し、本時はホンソメワケベラと大きな魚たちのかかわり合いを読み取ることを確認する。 ・「かかわり合い」の意味を確認し、魚たちが、どんな得をしてどんな役に立っているかを読みの視点とする。 |
| | 2 学習の課題を確認する。 | |
| | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>ホンソメワケベラと大きな魚たちは、どんなかかわり合いをしているのでしょうか。</p> </div> | |
| | 3 学習範囲を音読する。 ・一斉読 | ・本時の学習場面を確認する。 |

| | | |
|--|---|---|
| <p style="text-align: center;">ふ か め る</p> <p style="text-align: center;">30 分</p> | <p>4 学習課題を解決する。</p> <p>(1) ホンソメワケベラの体の特徴について読み取る。</p> <p>○ホンソメワケベラは、どんな体をしているでしょう。</p> <p>(2) ホンソメワケベラと大きな魚たちのかわり合いについて読み取る。</p> <p>○ホンソメワケベラが食べられないこととはどの文でわかりますか。</p> <p>○大きな魚たちとホンソメワケベラのどちらが得をしていると思いますか。そう思ったわけが書いているところにサイドラインを引きましょう。</p> <p>○サイドラインを引いたところを発表しましょう。</p> <p>○ホンソメワケベラが得をしていると思ったところはどこですか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・児童の発表から、形式段落7の主語のない文の主語を補わせ、ホンソメワケベラの体について読み取らせる。そして、写真のホンソメワケベラを確認させる。 (読) 「(ホンソメワケベラは) 明るい青色の体」、「頭からしっぽにかけて 黒いすじが一本」、「(ホンソメワケベラの) 体の長さは、十二センチメートルほど」をとらえさせる。(発言) ・主語をとらえさせたり、主語を「大きな魚たち」にして書き換えたりすることにより、大きな魚たちはホンソメワケベラを食べないことをとらえさせる。このことから大きな魚が小さい魚を食べない例もあることを理解させ、ホンソメワケベラと大きな魚たちの関係に興味をもたせたい。 ・挙手させ、自分の考えを明確にさせる。両方と考える場合も3つめの選択肢として取り上げる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>●得をしていると考えたわけが書いているところにサイドラインを引く。</p> </div> <p>(読) 「体や口の中についた虫を、ホンソメワケベラがきれいにそうじしてくれる」「そうじをしてとった虫が、食べものになる」にサイドラインを引くことができたか。</p> <p style="text-align: right;">(教科書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな魚たちは、体や口の中の虫をとってきれいにそうじしてもらうことにより健康に生きていけることをとらえさせ、ホンソメワケベラが役に立っていることを理解させる。 ・「そうじ魚」と呼ばれているが、そうじしてとった虫が食べ物になることをとらえさせる。また、大きな魚たちは「そうじ」の間はえらや口を開けてじっとしていることなど |
|--|---|---|

| | | |
|---------------------|---|---|
| <p>ふかめる 30分</p> | <p>○かかわり合いについて確かめましょう。</p> | <p>を教え、安全に食べ物を得ることができ、大きな魚たちも役に立っていることを理解させる。</p> <p>・板書をもとに大きな魚たちとホンソメワケベラが互いに役に立っていることを確認する。また、2枚の写真はホンソメワケベラと大きな魚がかかわり合っている場面であることを確認する。</p> |
| <p>まとめる 10分</p> | <p>5 本時の学習のまとめをする。 (1) ホンソメワケベラと大きな魚たちのかかわり合いについて、学習シートに書きまとめさせる。 ○ホンソメワケベラと大きな魚たちのかかわり合いを学習シートに書きましょう。</p> <p>(2) まとめの音読をする。</p> <p>6 自己評価する。</p> <p>7 次時の学習内容を知る。</p> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>●ホンソメワケベラと大きな魚たちのかかわり合いについて書きまとめる。</p> </div> <p>(読)きれいにそうじをしてもらうこと、食べものを得ていることにふれて書くことができたか。(学習シート)</p> <p>・主語などを補ったところは確認して読ませる。</p> |

(4) 具体の評価規準と指導の手立て

| 観点 | A | B | Bに至らせるための手立て |
|-------|--|---|--|
| 読みの能力 | ホンソメワケベラと大きな魚たちが互いに役に立っていることを、「そうじ」「とった虫が食べもの」にふれて主語に対応するように一文にまとめている。 | ホンソメワケベラと大きな魚が互いに役に立っていることを、本文に出てきた言葉をもとに主語に対応するように二文にまとめている。 | 写真や板書を参考にしながら、ホンソメワケベラと大きな魚それぞれが役に立っていることを考えさせ、かかわり合いを理解させる。 |